



年頭の御挨拶

静岡県知事

川 勝 平 太



明けましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

貴組合におかれましては、日頃から電気保安の確保や地球温暖化対策、防災に対応した電気工事に御尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

昨年4月に始まった電力の小売全面自由化により、9月までの半年間で、契約総数の3%に相当する188万件を超える契約が結ばれ、大手の電力会社から新電力会社に切り替わりました。今後、電力会社の切替えに向けた動きが活発化することが予想されます。

本県は、総合計画後期アクションプランの重点取組の一つとして、「エネルギーの地産地消」を掲げ、地域で生まれたエネルギーを地域で効率的に利用する、本県独自の電力需給システム「ふじのくにバーチャルパワープラント」の構築に取り組んでいます。これは、最新のIoT技術を活用し、再生可能エネルギーの発電と蓄電池を組み合わせ、地域の電力供給を充当する一方、家庭や工場などの地域内の電力需要とを効率的にマッチング・調整する画期的な仕組みです。

電力業界は今、正に変革の時代にあり、これら産業の変化に的確に対応していくためには、何よりも人材育成が重要であると考えております。そこで、電気工事士の養成も行っている技術専門校の再整備や、訓練内容の高度化を図るプロジェクトを進めています。

貴組合におかれましては、今後電力の安定供給や電気設備の安全確保が、より一層重要になる中で、これまで以上に技術力の向上や人材育成に努められ、県民の皆様へ安全・安心を御提供くださいますよう、お願い申し上げます。

げます。

昨年は、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが開催されました。オリンピックでは、日本男子トラック種目史上初となる銀メダルを獲得した、400メートルリレーで第2走を務めた飯塚翔太選手をはじめ、静岡県勢は4個のメダルを獲得しました。また、パラリンピックでは本県ゆかりの出場選手12人のうち、6人がメダルを獲得するなど、めざましい活躍をされました。国際舞台で活躍する本県出身の選手が多数輩出されることは、「スポーツ王国の復活」を目指す本県にとって喜ばしいことです。

2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。県民の皆様には、世界最高レベルのプレーを間近で観戦し、スポーツに対する関心を高めていただきたいと思います。また、世界遺産の富士山や韮山反射炉、ユネスコエコパークの南アルプス、そして昨年11月2日に「世界で最も美しい湾クラブ」加盟が決定した駿河湾など、本県の世界水準の魅力を全世界から訪れる方々にアピールする絶好の機会となることでしょう。

県は、県政の基本理念に「富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり」を掲げ、県民幸福度の最大化に向けて「ポスト東京時代」の新しい国づくりを目指してまいりました。国土の象徴である富士山を擁し、日本を代表する豊かな自然や文化に満ち溢れた本県こそ、「ジャパニーズ・ドリーム」を実現する地としてふさわしい地であります。引き続き、県民誰もが幸せに暮らす理想郷“ふじのくに”づくりの実現を目指してまいります。

今年一年、皆様の御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、貴組合のますますの御発展と、組合員の皆様の御健勝と御活躍を心からお祈り申し上げまして、年頭の御挨拶といたします。

平成29年 1月